

宇城普及指導区

～岡山県美作市で視察研修を実施～

管内の林業担い手の技術研鑽と相互交流を図るため、令和7年2月6日（木）から7日（金）に岡山県美作市において視察研修を実施しました。

訪問した同市北部の右手（うて）地区では、ミツマタ農家と継業のため移住した地域おこし協力隊員から高級和紙の原料となるミツマタ栽培の技術指導を受け、併せて地域活性化の取組みについて意見交換を行いました。ミツマタは寒暖差に強く林間栽培が可能で、シカの食害を受けないこと。生産が冬場の農閑期にあたるため副業に適していること。また、花は観光資源として活かすことができると説明を受けました。ミツマタは管内にも自生しているため、新たな林産物としての可能性を見出すことができました。

その他、木地師の館では轆轤（ろくろ）を使った皿づくり体験、共和林業有限会社では代々継承されてきた水車式製材装置を見学し、伝統に触れることができました。

来年度以降も引き続き県外で視察研修を実施し、研修で得た技術や知見を地域林業の発展に活かしていきたいと思っております。



上益城普及指導区

～県内外で木工教室を行いました～

上益城普及指導区では、県内外で開催される観光PRイベントやフェアにおいて木工教室を開催し、木に触れてその良さを感じてもらう「木育」に取り組んでおり、取組みの一部をご紹介します。

令和6年10月6日（日）の大丸福岡天神店のパサージュ広場で開催された「くまもとモンマルシェ」では、約60名の参加者にランプシェードや鉛筆立てづくりを体験してもらい、併せて、県立矢部高校が制作した認知症予防木製パズルのPR等を行いました。

令和7年2月8日（土）、9日（日）のイオンモール熊本で開催された「かみましきマルシェ」では、約400名の参加者にツールや小物入れなど計8種類の木工を体験してもらいました。また、森林環境譲与税に関するパネル展示やアンケートを行いました。

今後も様々な機会を捉えて、多くの方々に県産木材のPRと「木育」への取組みを続けていきたいと思っております。



① くまもとモンマルシェ 木工教室



② かみましきマルシェ 木工教室

菊池普及指導区

～菊池管内森林経営計画作成ゼミ～

菊池地域では、自ら森林を経営・管理したいという自伐林家等が現れていることから、森林経営計画を自ら作成できるスキルを身に付けるための「森林経営計画作成ゼミ」を令和6年6月から令和7年2月まで管内の林業事業体・自伐林家を対象に毎月1回開催しました。

第1回～2回で制度の概要を、第3回で計画書の構成を学習し、第4回～8回では図面や森林簿を用いて実際にパソコンを操作しながら各自で間伐、造林、作業道など施業の内容や時期を考えて計画書を作成し、併せて認定請求や変更手続きやなどの演習も行い、第9回でこれまでの総復習を行いました。

このゼミでは、参加者の理解や出来具合を確認しながら、その都度質問を受ける形で進めたことで全員の進捗状況を揃えながら認定請求の仕方までの一連の流れを理解いただき、計画作成から認定までをリアルに経験できたのではないかと思います。

今後も、森林経営計画による地域森林の持続的な管理を促進するとともに、自ら計画を作成できる林業者を養成することで新たな整備箇所を発掘し、森林整備の更なる促進を図っていくこととしています。



玉名普及指導区

～緑の少年団交流集会を開催～

玉名地域森林・林業振興協議会（林業普及・林研グループ部会）では、令和6年（2024年）12月17日（木）に、和水町の菊水小学校で緑の少年団交流集会を開催しました。

当日は、4年生45名に対し、森林教室、丸太切り体験及びミニ門松づくりを行いました。

森林教室は、紙芝居形式で絵を多用し、簡単なクイズを挟みながら、森林・林業についての理解を深めてもらいました。

次に、丸太切り体験では、日頃、のこぎりを使うことが少ないようで、力任せに押し引きし、疲れてしまう児童が多くいました。

最後のミニ門松づくりでは、飾りつけに熱中し、時間をオーバーしてしまう程でした。

玉名普及指導区には、荒尾市、和水町及び南関町にそれぞれひとつずつ3つの緑の少年団があり、コロナ禍以降3つの団が集まったの集会在開催できず、ようやく本年度から以前の形での再開となりましたが、平日開催のため日程が合わず、単独での開催だったため、来年度以降は文字どおり少年団の交流が図られることを願っています。



鹿本普及指導区

～鹿本地域林業担い手対策会議の開催～

県、山鹿市、管内林業事業体が連携して林業担い手の確保・定着に関する課題の洗い出しや対策等を検討するため、「鹿本地域林業担い手対策会議」を令和6年度に4回開催しました。

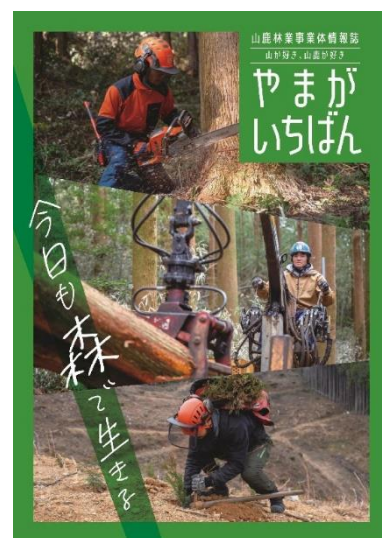
第1・2回会議では、管内林業事業体の林業従事者の実態、年齢構成、定着の課題について意見交換を行い、林業従事者に対してアンケートを実施することとしました。

第3回会議では、定着率向上に向けて、林業従事者の「就業動機」や「やりがい」を把握するためのアンケート項目について議論を行いました。また、「鹿本地域で新しく林業を始める

仲間探し」をコンセプトに林業事業体情報誌についても意見交換を行い、インタビュー記事や地域の魅力も掲載することとしました。

第4回会議では、アンケート結果の報告と完成した林業事業体情報誌のお披露目を行いました。アンケートでは、全年代において、「自身のスキル」が現場作業において発揮された時に、「やりがい」を感じていることが判明しました。このことから、定着率の向上に繋げるためには、事業体や行政がスキルアップの機会を提供し、作業目標を明確に設定することが重要であると思われます。

今後は、作成した林業事業体情報誌を森の仕事ガイダンスや林業大学校での配付等で活用し、担い手の確保や定着に向けて、地域一体となった取組みを継続していきます。



阿蘇普及指導区

～アシストスーツ体験会を開催しました～

令和7年1月16日、阿蘇地域振興局にてアシストスーツの体験会を開催しました。開催のきっかけは、従来のアシストスーツよりも軽量で安価な製品が販売されたと情報提供があったため、「ぜひ試してみたい」との林業従事者からの要望に応えるために企画しました。

当日は、管内林業事業体を中心に約60名の方が参加され、4種類のアシストスーツを体験されました。参加者からは、「装着すると楽になったような気がする」、「実際に現場で1日装着して作業してみたい」などの好意的な意見が多数ありました。

ただ、1着が2～5万円程度であるため、すぐ購入するかどうか、検討される参加者が多かったようです。そのため、阿蘇地域林業担い手対策協議会の協力により、貸出し用のアシストスーツを購入し、複数の林業事業体に貸出しを行っています。今後、より多くの林業担い手に現場で体験してもらい、現場作業の負担軽減につなげていきたいと思えます。



八代普及指導区

～林業技術研修会（先進地視察）を開催～

八代地域林業研究グループでは、地元の物産館からの提案を受けてクラフトビールの製作に取り組むことになりました。会員で原料を話し合い、スギ・ヒノキ等の八代地域の山で採取した葉を使用することにしました。

そこで、香りの抽出等について勉強したいということになり、当グループが所属する八代地域林業研究・普及連絡協議会で先進地視察を行いました。

まず、福岡県八女市にあるアロマ生産の「八女飛形蒸留所」を見学。熱心に話を聞き、質問され、会員の関心の高さを感じました。

次に木工品の製作販売の研修要望もあり、子供向け等の安心安全な小物や遊具を製作されている佐賀市の「飛鳥工房」で視察と製作体験。広葉樹も多い五家荘地域には可能性も感じました。

当グループでは新規会員の加入に刺激され、活動が活性化しており、今後も普及員で活動を支援していきたいと思えます。



芦北普及指導区

～林業研究グループ・林業技術普及協会合同視察研修会を開催～

水俣芦北地域では温暖な気象条件を生かして、平成25年頃からセンダンの植栽が行われていますが、更なる普及促進のために先進地である天草地域を視察しました。

天草市方原地区のセンダンモデル林は、元々果樹の耕作放棄地でしたが、令和4年にセンダンを植栽し3年経過した現在は樹高が6m程度になっており、会員の皆さんは成長の早さに驚かれていた様子でした。

また、モデル林の下方にはミカン園があり、センダンの植栽前にはイノシシの食害を受けていたとのことでしたが、植栽後はそのようなことはなくなり、潜み場となっていた耕作放棄地を解消することで鳥獣被害を抑制する効果も表れてきており、園地所有者も大変喜ばれていました。

水俣芦北地域も耕作放棄地と鳥獣被害の課題があり、センダン造林の普及促進と併せて鳥獣被害の軽減に向けた取組みについても推進していきたいと思えます。



球磨普及指導区

～100年後、200年後を見据えた人吉球磨の森づくりに向けて～

人吉球磨地域の人工林の多くが利用可能な時期を迎えている中で、この豊かな森林資源を次世代につないでいくためには、資源の循環利用を永続していく必要があります。このため、人吉球磨地域の林業関係者が自らの行動を律するため、平成31年3月に「次世代につなぐ球磨の森づくりルール」が策定され、森林環境保全パトロールなどの活動を継続的に実施してきたところです。

一方で、策定から5年が経過し、再造林の推進や災害に強い森づくりに向けた関心が高まっていることを踏まえて、林業関係者の更なる意識醸成を図るために、ルールの改正に普及指導員が中心となって取り組みました。

ルールの改正に当たっては、管内の森林組合や造林、素材生産業者、行政等15名で構成する委員と普及指導員が令和6年7月から翌年2月にかけて“人吉球磨地域の将来の森づくり”に向けた議論が進められ、今年3月にルールが改正されました。

今後は、ルールに基づき人吉球磨地域の豊かな森林資源と、その森林を活かした生業を後世へつなげていくための森づくりを地域の林業関係者とともに展開してまいります。



R6. 8月森林環境保全パトロール



R7. 3月森づくりルール改正報告会

天草普及指導区

～天草ヒノキの木糸を使用した「天草地域緑の少年団ユニフォーム」を贈呈～

～天草ヒノキの木糸を使用した「天草地域緑の少年団ユニフォーム」を贈呈～

天草普及指導区

天草地域では、これまで林内に放置されていたヒノキの間伐材や枝葉を木糸に加工し、利用することで新たな木材の利活用が図られることを期待し、天草ヒノキの木糸を活用した天草地域緑の少年団ユニフォームを制作し、管内の緑の少年団へ贈呈しました。

この取り組みについては、令和5年度から林業普及指導員が木糸生産事業者、市町、森林組合、緑化推進委員会と、費用・予算・デザイン・制作等についての検討や協議を重ねた結果、令和6年9月に小学生用、中学生用、併せて243着を制作することができ、11月16日に開催した天草郡市育樹祭に合わせて贈呈式を開催しました。

当日の午後からは天草地域緑の少年団交流集会も実施し、普及指導員や林研グループ会員が指導者となり、森林環境学習や木工教室、丸太切り体験にも参加してもらうことで、少年団間の交流を図るとともに、子供たちの森林・林業への理解を深めることができました。

今後も木糸を使用した緑の少年団ユニフォームを活用し、森林環境学習や木工教室をとおして、緑の少年団活動の活性化に向けて取り組んでいきます。

